

OPINION



欧州は、石油の中東依存から脱却しようと、フランスは核による選択肢で、イギリスとノルウェーは北海での石油掘削に成功したが、ノルウェーを除けば、程度は別として中東依存は免れなかった。旧ソ連圏の開放後、ロシアは石

ナヒゲーター

油とガスの代替的かつ安定的な供給源と見なされはじめた。ドイツなど多くの国々は、中東依存を別の依存へと転換したのである。

2011年の東日本大震災とそれに関連した福島原発事故から原子力エネルギーの放棄を決定後は、ロシア依存

日本への期待
世界各地から

其 68

中東・ウクライナの戦争で西欧の不安定続く

は極端なまでに進出した。ドイツに続きわが国スイスも、すぐこの道を歩むことになった。しかしウクライナ戦争の勃発後、ロシアはエネルギー供給国として歓迎されなくなり、西ヨーロッパは程度の差こそあるものの、中東の石油やガスにまた依存し、ドイツは国内の石炭に切り替えた。現在、中東は再び不安定要因として見なされ始め、それは原油価格の上昇に反映されている。化石燃料を好ましくないものと見なすエネルギー政策と相まって、「グリーン」

中東の紛争 スイスからの見方(下)

化の動きから新たな原子力エネルギーに関する議論を歓迎するべきかもしれない。実際、核融合は少なくとも2、3世代先のこのため、核分裂炉の開発がエネルギー源として魅力になってきている。プラント建設を簡素化する小型モジュール式原子炉(SMR)開発による、小型化推進が報告されている。米国外では初めてとなるものがルーマニアに建設中だ。高い安全性と低廃棄物、さらに旧世代の原子炉から出る放射性廃棄物を確実に燃焼させて

しまう新世代の鉛冷却高速中性子小型原子炉である。そして英仏伊のベンチャー企業であるニュークレオ社が、2030年の運転開始を目標に、このような原子炉の最初のプロトタイプを建設中である。欧州ではエネルギー問題同様に大きな課題が治安に残る。特に祖先たちが持っていた経済的な願望や機会がなく、低技能移民の次世代である多くの若者にとり、イスラム過激主義は、ナシヨナリズムやマルクス主義と同様の共同体意識や人生の目的を与えてくれる。各地の過激派伝道師や

フランス、ベルギー、オランダ、ドイツ、北欧における最近の産業政策に関する移民政策での課題、そして最後に、これまでほとんど触れられることなかった南欧における最近の移民拡大の問題である。このような原子炉の最初のプロトタイプを建設中である。欧州ではエネルギー問題同様に大きな課題が治安に残る。特に祖先たちが持っていた経済的な願望や機会がなく、低技能移民の次世代である多くの若者にとり、イスラム過激主義は、ナシヨナリズムやマルクス主義と同様の共同体意識や人生の目的を与えてくれる。各地の過激派伝道師や

SNSはハマス支持の声を急速に広め、大多数に受け入れられなくとも、危害を加えうる少数の「二匹狼」を容易に動かす。現在、諜報活動、過激派排除、技能向上・統合プログラムが欧州全土で強化されつつあるが、その効果が発揮されるのには時間がかかる。結論として、欧州の将来はけっして明るくない。中東やウクライナでの戦争行為が急速に終結しないかぎり、ヨーロッパはテロリストの脅威による安定性の低下と、エネルギー高騰による物価上昇にひんし続けることになる。【スイス ルジエロ・ウィズレル、リーム中産連】(月曜日掲載)